

卒業生が語る中高一貫教育 第1回

私が過ごしたミッションでの6年間

今を遡ること6年前の2003年、高校受験によって寸断されることのない、生徒一人ひとりに合わせた学習プログラムの実現を目指し、「中高一貫教育」を導入した北陸学院。このインタビューシリーズでは、夢への確かな一歩を踏み出した第一期目の卒業生たちに、「勉強プラスもうひとつ」を教育方針とする北陸学院で過ごした6年間を振り返ってもらいます。



「ありのままの自分でいられた、 “十人十色が当たり前前の校風”に 今は心から感謝しています」

中川 司さん | 金沢大学
なかがわ おさむ | 人間社会学域 経済学類1年

月刊北國アクトス2009年9月号掲載記事

少人数制の落ち着いた環境で学ぶ

北陸学院を選んだ理由は？
小学校6年のときに、ミッションの学校案内で男女共学になることを知り、受験をしました。少人数制の落ち着いた環境で勉強ができそうだったと思ったことが、受験を決めた理由です。

卒業までの6年間を中高貫進学コースで過ごしました。授業を集中して聞くことができるのは予想通りでしたが、意外だったのは、生徒一人ひとりがすごくパワフルだったこと。ミッションには、文化祭をはじめ、生徒が中心となって進める行事がたくさんありますが、とくに女子のパワーに圧倒されるのがよくありました(笑)。

野球と囲碁と勉強の三立

ミッションでは勉強以外の活動や世界を持つ「勉強プラスもうひとつ」を薦めていますが、打ち込んでいたことは？
中学では囲碁とテニス部に所属し、高校の3年間は野球を続けました。野球部に入部したのは、先輩たちがとても楽しそうに見えたから。僕自身野球の経験はありませんでしたが、その分率先して大きな声を出したり、自分できちることを頑張ろうと決めていま



した。普段は和気あいあいと、練習には厳しく集中して取り組み、いわゆる切り替えをきちんとしていたのが野球部の特徴でした。小学校から熱中してきた囲碁も続けたかったので、囲碁部にも入り、部活と勉強の両立ではなく、野球、囲碁、勉強の三立という毎日でした。

部活を掛け持ちする生活では学習時間の確保が難しくなるので、授業内容は必ずその場で理解するように心がけていました。それが授業を集中して聞く姿勢につながったと思います。

終了後の9月末ごろだったと記憶しています。
先生と面談し、最初の目標を11月の名古屋大学の推薦入試に決めました。それからは二次試験対策と並行して二次試験で課される英文読解と要約、文法を先生が付きっきりで指導してくれました。それぞれ、中学と高校で積み重ねてきたことや目標が違いますから、ミッションでは個々の進路に応じた資料やプリントを揃え、丁寧に添削してくれました。僕の場合は、単語が弱かったので文法面をよく添削指導してもらいました。少人数だからすぐに先生に質問できることもよかったです。

結果は不合格でしたが、気持ちを切り替え、もともと考えていた金沢大学に照準を定め、先生が作ってくれたプリントに取り組みました。短期間でこなすには相当の量でしたが、部活動で鍛えた集中力が役に立っていたと思います。毎日の授業をしっかりと把握してきたことや楽天的な性格もあってか、あせることはありませんでした。

学校の進路指導室を活用

一般前期で金沢大学に合格するまでの受験勉強は？
夏で、全国高校囲碁選抜大会

受験までは学校の進路指導室を活用しました。そこには赤本をはじめ、受験に必要な資料が全部揃っています。進路指導

室にいと、先生方が「調子はどうか」と気さくに声をかけてくれたという安心感は大きな支えになりました。

受験に対する学校のバックアップ体制には本当に感謝しています。

毎朝の礼拝が「1限目」

ミッションで毎朝行われる礼拝は、どのような影響を与えましたか？
クリスチャンの家庭ではないので、中学に入って初めて礼拝を体験しましたが、心落ち着かせる時間を毎朝クラスメイトと共有できることは、よいことだと思いました。

登校してすぐに授業が始まるのではなく、礼拝時間に「これから学校の1日が始まるぞ」と気持ちを切り替えることができ、僕の中では、毎朝の礼拝が1限目といってもいいほど大切な時間でした。

十人十色が当たり前という校風

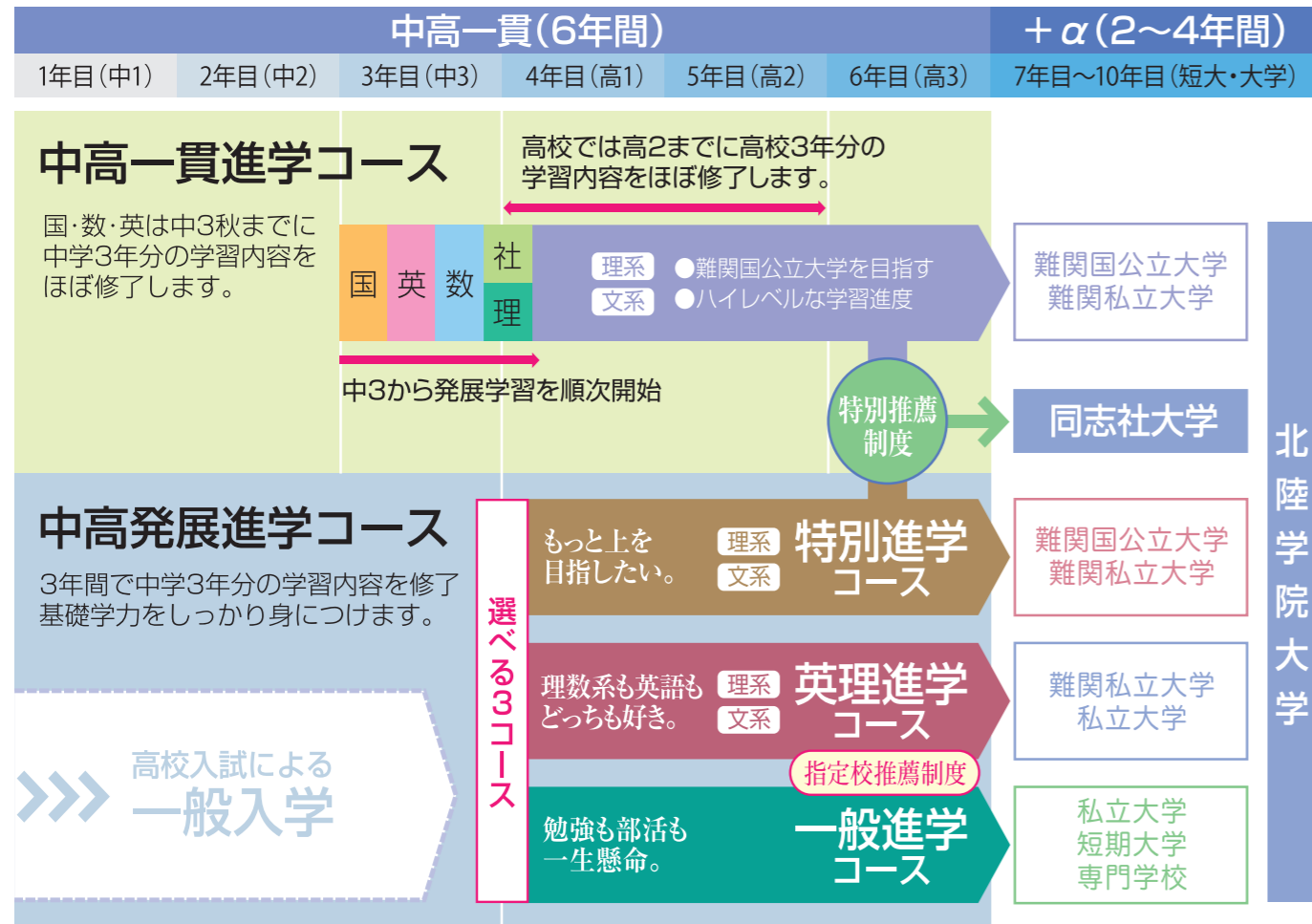
生徒から見たクラスメイト、学校の印象は？
入学してすぐ、ミッションの生徒は、それぞれが何かひとつ強いものを持っているという印

象を受けました。たとえば英語に強い、数学に強い、文章を書くのがうまいとか。そんな友人を尊敬して、「自分も人に負けないものがほしい」と囲碁や野球に打ち込んでいました。

—ミッションの10年Story—

個性に合わせて広がる未来

大学を含めた10年間をひとつの教育期間と考え、広い視野をもった人間味あふれる社会人を世に輩出しています。



北陸学院の「中高一貫教育」

「ミッションの中高一貫教育」という選択

無限の可能性を秘めたお子さんの未来のために…

今春、北陸学院初の「中高一貫カリキュラム修了生」たちが、大学受験においても立派な成績を収めました。

なぜ今「中高一貫校」なのか

子どもが小学校高学年になると、保護者の間で「中高一貫」「受験」という言葉が聞かれるようになってきます。中高一貫教育の最大のメリットは、基礎学力の低下という「ゆとり教育の課題」を解消し、6年間で効率的に学習を進められることにあり、「子どもにやさしい教育」として中高一貫校を選ぶ親が全国的に増加しています。

北陸学院中学校・高等学校の特色ある「2つのコース」

北陸学院は、2003年度より県内初の「中高一貫教育」を実践してきました。北陸学院中学には、6年間のカリキュラムで全国の難関国立私立大学を目指す「中高一貫進学コース」と中学で基礎学力を身につけ、高校入学時に自分に合ったコースを選択できる「中高発展進学コース」があり、どちらのコースも、早い時期に基礎的な学習能力の土台を固めます。そのため、子どもたちは、部活に、学校行事に、また好きな習



少人数制による丁寧な指導で生徒の能力を引き出す



人格形成に大きな役割を果たす毎朝の礼拝

い事に取り組み、彼らの人生にとって大きな財産となる友人との時間を楽しみながら、無理なく大学入試への準備を整えることができます。また、北陸学院では、キリスト教教育を軸とした心の教育をすべての土台としており、思春期を迎えた多感な子どもたちの、人間的な成長をしっかりとサポートします。

推薦と一般、どちらの入試制度にも強くなる

大学入試において、推薦に強いことも北陸学院の大きな特徴です。同志社大学とは、教育連携協定を結び、2011年度より15名程度の特別推薦枠が設けられる予定です。また、キリスト教学校教育同盟校として、関西学院大学や青山学院大学にも多くの指定校推薦枠を有しています。これらの大学をはじめ、全国95校^{※1}への指定校推薦、公募制推薦、AO入試^{※2}などの制度を利用し、夢を叶えた先輩たちが充実したキャンパスライフを謳歌しています。

さらに、中高一貫カリキュラムの成果が初めて試されることとなった今春の入試においては、合格実績の約40%を一般入試が占める結果となりました。(実績の詳細については左ページをご覧ください)

※1 2009年4月現在
※2 アドミッション・オフィス入試、出願者の人物像を学校側の求める学生像と照らし合わせて合格を決める入試方法。

中高一貫「第1期卒業生31名」の合格実績 (2008年度:すべて現役合格)

■中高一貫・特別進学コース

[国立大学] 金沢大(人間社会、理工) 2名 富山大(工、経済) 3名 はこだて未来大(システム情報科学)

[私立大学]

青山学院大(文) 関西外国語大(外国語) 関西学院大(法) 京都産業大(経営、経済) 6名
京都女子大(現代社会、文) 3名 京都精華大(マンガ、芸術) 3名 近畿大(経営、経済) 2名
芝浦工業大(工) 2名 中京大(現代社会、総合政策) 2名 東京薬科大(生命科学)
日本女子大(理) 法政大(国際文化、文、理工) 5名 武庫川女子大(文) 3名
明治学院大(国際、文) 2名 桃山学院大(経営、社会) 2名 立命館大(映像、経済) 2名

■英語コース (2007年度より英理進学コース)

[私立大学]

学習院大(法) 国際基督教大(教養) 上智大(法) 北陸学院大(人間総合)

■一般進学コース

[私立大学]

青山学院大(経営) 京都精華大(芸術、人文) 3名 京都ノートルダム女子大(人間文化)
女子美術大(芸術) 玉川大(リベラルアーツ) 同志社女子大(学芸)

※「のべ人数」による実績。高校からの入学者の実績は含んでいません。

これからの予定

文化祭 2009年 9月12日(土)
(ミッション祭)

中学・高校合同で行われる文化祭です。ぜひお立ち寄りください。

